

本日ここに、佐賀学園高等学校第61回卒業証書授与式を挙げるにあたり、御多忙の中、振興会会長平田尚大様、楠実会会長小部嘉彦様はじめ御来賓各位、並びに保護者の御臨席を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナ感染拡大により、昨年のちょうど今の時期、全国緊急事態宣言が発出され、その後、臨時休校が続き、全国高校総体や夏の高校野球甲子園大会など部活動の総決算ともいべき大会が次々と中止になりました。学園祭も縮小するなど学校行事も大きな影響を受けました。卒業生の皆さんの中には、目標を失い、悔しい思いを抱いた人も多かったと思います。しかし、そういった状況にあっても、バレー部男子は夏のSSP杯で優勝、剣道部女子も団体第3位となりました。その後も、男子バレー部は春の高校バレー全国大会にも出場し1回戦に勝ち、吹奏楽部も九州アンサンブルコンテストで金賞受賞、また、先日行われた定期演奏会は多くの人々の胸を打つ素晴らしいものでした。県高校総合文化祭において、書道部や写真部の生徒たちが優れた賞を獲得したことも特筆すべきことでした。野球部も甲子園の夢は叶いませんでしたが、秋の県大会3連覇を果たし、水泳部も多くの部員が県のトップレベルで活躍するなど、伝統を誇る部活動も健闘しました。商業検定においても8名の生徒が3種目以上1級取得者となり、県の高校商業技術競技会では、情報ビジネスなど各部門で優れた成績を挙げ、商業教育の伝統をしっかりと受け継いでくれました。

就職・進学の結果も眼を見張るものでした。国立大学合格数が増え、東京音楽大学などの難関校にも合格し、その他にも、これまでの部活動の実績を活かして大学に進み、競技者として、その道を究めようとする人もいます。また、コロナ禍で医療現場の逼迫が伝えられている中、高い意識を以て、看護師、理学療法士への道を選んだ人が多かったことは、校長として誇りに思うところでした。就職の面でも、佐賀銀行、JA、ダイハツなど優良企業の事務職や、吉野ヶ里役場に内定した人をはじめとして、希望者のほぼ全員が内定を得ることができました。経済が冷え込み、求人数が激減した中で、本当によく頑張ってくれたと思っています。

この1年、新型コロナに翻弄された日々ではありましたが、いつしか季節は巡り、その間、卒業生の皆さんは確かな成長の時を刻んできたと思います。自分の力ではどうしようもない現実、工夫や閃き、粘りと情熱などという言葉では拓くことのできない現実が横たわっていました。しかし、皆さんはその中で、耐える時を耐え、今自分たちがやれることを精一杯やってきたといえるのではないのでしょうか。そのことは、時代の困難を受けと

め、新たな時代を築く準備につながっているように思います。東日本大震災以来、今の若い人たちは随分しっかりしてきた、予測不能なこれからの時代を担っていこうという意識を持った若者が増えてきたと、私は感じています。だから、皆さんたちの飛躍と皆さんたちの創る未来に期待しています。

その期待と併せて、皆さんの心に留めてほしい一つの言葉を贈ります。それは「啐啄同時」という四字熟語です。「啐」の字は、まだ卵の中にいる鳥の雛が外に出ようとして、卵の中から殻をつつくことであり、その時に母鳥が外から殻をつつく、その動作が「啄」という字の意味です。自ら外に出ようとする、親が外から殻をつついて助けてやる、この二つの動きが「同時」に起こってはじめて、殻を破り、雛が外の世界に出ていけるということなのです。元々、禅宗の教えの中にある言葉で、学ぶ者の意欲、教え導こうとする者の気持ちが一つになって、新たな境地に達するといったことを意味しているようです。広げて考えれば、皆さんは、これからも社会の中で、教養を深め、自分がよりよく生きるために様々な知識や技術を身につけていくことが大切です。その一方で、行き詰ったり、悩んだりするとき、独りよがりにならず、人に相談する、人に助けてもらうことも必要ではないかと思います。少し深めれば、自分自身が生きぬく力を身につけると共に、自分にはない考え方・自分とは異なった感覚を外から受入れることが、それまでの自分の殻を破り、新たな自分を創ることにつながるのではないかと思うのです。そのことを心に留めておいてください。

申し遅れましたが、保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。今、目の前に映る子どもたち、新たな世界に飛び立とうとする子どもたちの背中はいつもとより大きく、また眩しく感じられているのではないのでしょうか。しかし、まだまだ、親として、人生の先輩として、子どもたちにしてやれることはあると思います。どうか、「強うしとってください」。これは私たち世代まではよく耳にした佐賀の方言で、「健康で元気でいてください」という意味です。私は高校の卒業式直前に母親を亡くしておりますので、こんな言葉がつい思い浮かぶのです。これから子どもたちは新たな世界に羽ばたいていきますが、どんな時でも、心からの笑顔で包み、支えてあげられるよう「強うしとってください」。

最後になりましたが、ここに御臨席の皆さまのこれからの御多幸と御健康を祝し、結びといたします。

令和3年3月1日

佐賀学園高等学校長 福地昌平